

MiYAGi

まちづくりと 地域支え合い



CONTENTS

住民活動のリーダーと談笑する女川町生活支援コーディネーター、住吉いづみさん(右)

2-3 「まちづくりの今」① 亘理町
地域に体当たり 住民に学ぶ体制整備
佐藤寛子さん (亘理町生活支援コーディネーター)

4-5 「まちづくりの今」② 女川町
お宝生かす協議体 地域づくりに手応え
住吉いづみさん (女川町生活支援コーディネーター)

6-8 2018年度 宮城県地域支え合い・
生活支援推進連絡会議の活動報告

宮城県内外の
生活支援コーディネーターおよび協議体の
取り組みを発信しながら、
住民や専門職・関係機関の意識を高め、
最後まで住み慣れた地域で暮らし続ける
社会づくりを目指します。

vol.22
2019.5

亘理町

【わたりちょう】人口3万3593人(6640世帯)、高齢化率30.5%(2019年3月31日時点)。生活支援体制整備事業では町全域を日常生活圏と設定。第1層生活支援コーディネーターは2017年4月、町社会福祉協議会の職員1人を選任し、町地域包括支援センター(町役場福祉課内)へ出向させる形で配置。2019年3月まで同センターで活動し、同年4月から町社協に戻って活動を継続。第1層協議体は2017年7月設立。地元高校生の参加枠がある。

地域に体当たり 住民に学ぶ 体制整備

佐藤寛子さん

佐藤寛子さん(足利市の団体が震災の年に植樹した「応援桜」の前)



難しく考えるのはやめた

「初めのうち、生活支援体制整備事業を住民に伝えねばと、すごく気負ってました。堅苦しい言葉も使って、とにかく理解してもらおうと」

こう話すのは、亘理町の第1層生活支援コーディネーターとなつて現在3年目の佐藤寛子さん。「あるとき、地区の役員から『何を言っているのか、わからない』と言われてしまつて」

佐藤さんは説明を重ねる。介護保険と体制整備、地域包括ケア、住民主体の地域づくり…

「で、その人は話を聞き終わつてこつたんです。『要するに年を取つてもここで暮らし続けて、安心して迎えを待てるようにしようってことだな』って」

制度とその目的が、人生の重みと生活の実感を伴う言葉に翻訳された瞬間だった。「この一言で(気負いが)ぼろんと取れました」

コーディネーターになって、3か月ほどが過ぎていた。以来、佐藤さんは制度の話をあまりしなくなった。その代わり、「安心して迎えを待てる地域にしよう」という話はよくしています」

体制整備の説明チラシも制作したが、それも「ぼろんと取れた」頃から使わなくなった。「今はすごく楽にいうか、難しく考えずに動くことができます」

佐藤さんの仕事の柱は三本。第一に地域に入って住民の暮らしのなかにある介護予防的な活動や支え合い、すなわち「地域のお宝」を掘り起こすこと。第二に、それらを「見える化」して地域づくりに生かすこと。第三に、協議体を運営し、住民主体の地域づくりの実践を生み出していくこと。

お宝の掘り起こしでは、高齢者が集まつて何かしていると見たり聞いたりすれば、佐藤さんはまず現場に行く。原則として事前連絡はしない。「いきなり『こんにちは、何してるの〜』とお邪魔します。突撃訪問ですよ(笑)。アポを取ると皆構えてしまつて、普段の姿を見せてくれません」

宮前ゲートボール愛好会(3頁囲み記事参照)の場合は、コートでプレーする様子を見かけて、「こんにちは〜」と入つていった。佐藤さんは「どこから来てるの」「いつ集まるの」「年はいくつなの」「ここに来ない日は何してるの」などを聞き、会話をふくらませていく。そのなかで、ゲートボールが健康づくりだけでなく、暮らしに役立つ情報を交換したり、お互いを見守つて孤立を防止したりする場になっていることを明らかにする。「だからみんな元気なんだね、ひとり暮らしでも安心だね、これですごく大事だよ」と、その場でお宝としての価値を伝える。当事者に気づいてもらうことが、お宝を生かす地域づくりの第一歩だからだ。



わがまちのお宝紹介

【宮前ゲートボール愛好会】80歳代の男女12人が、よほど悪天候でない限り毎日活動。会員からは「認知症予防にいい」「1日でも休むと体の調子が悪い」「活動が休みだとヒマ

で仕方ない」といったコメントが。生活支援コーディネーターの佐藤寛子さんは、「皆さんプレーだけでなく、仲間とのつながりを大事にしています。お互いに暮らしぶりを知らせ合ったり、生活情報を交換したり。まるでサロン」と述べ、地域のお宝として高く評価している。

住民と信頼関係を築く秘けつは何か。佐藤さんは「自分自身の情報公開」を挙げる。「初めて行く集いの場では、皆さんが私の身上調査をします(笑)。「あなた(出身、住所は)どこの」から始まって、年齢とか家族構成とか。私は結構何でも話しちゃいます。そうでもない、相手も自分のことを教えてくれません」

このほか、訪問先で出された食べものは、「苦手な牛乳以外、全部食べる」、住民に何かをしてあげるのではなく、「こっちが助けてもらう、教えてもらう」姿勢も心掛けています。

小さなお茶飲み場に心震える

突撃訪問ではなく、誰かのツテを頼ったり、約束を取り付けたりしたほうが良いと判断することも、もちろんある。たとえば、集いの場が個人宅の場合だ。

歩行がやや不自由で、訪問介護を利用するひとり暮らしの女性(70歳代後半)がいる。近所に同年代のお茶飲み仲間が2人いて、ゴミ出しその他、女性には難しい生活上のあれこれを手伝っている。女性はときどきこの2人に手料理をごちそうする。ある日、離れて暮らす女性の子どもが帰省、お茶飲みの様子を目の当たりにした。母親が安心してひとり暮らしを送れる理由を知り、以来「ここを引き払って同居を」と勧めるのをやめた。お茶飲み仲間には「どうか母のことを見ていてやってください。何かあったらいつでも連絡を」と頼んでいる――

この女性の暮らしぶりに触れ、佐藤さんは心が震えた。「生活支援サービスも必要だと思いますが、サービスができたからお茶飲みや近所付き合いがいらなくなることはない、絶対にしたくない」

掘り起こしたお宝は、町地域包括支援センターや町社会福祉協議会、協議体などで情報共有する。一部は町の広報紙「広報わたり」に専用コーナーを設けて毎月一つずつ紹介してきた。

これまでに取り上げたお宝は、サロンや自宅でのお茶飲み、スポーツ・趣味・娯楽のサークル、地域のお祭りなど多岐にわたる。コーナー名は「突撃！生活支援コーディネーターがゆく」。記事には毎回佐藤さんの写真も載せる。お宝だけでなく、コーディネーターの仕事も見える化するためだ。「知らない人からよく声をかけられるようになりました。それも地域に入るきっかけになります」

広報紙の連載は、今年3月で休止。これまでグループの活動を紹介してきましたが、個人の暮らしにスポットを当てた新連載を企画中です」

サロンやサークルなど、比較的オープンな集いの場については、包括と共同でマップ付きの冊子にまとめた。通所介護などの相談で包括や社協を訪れる人に、介護保険サービス以外にも利用可能な集いの場が地域にあることを知ってもらうのに利用している。

協議体は、各種住民団体や農協、生協、NPO、シルバー人材センターの代表や民生・児童委員、包括や社協の職員、それに地元元理高校の生徒ら20人あまりで構成。年4回のペースで会合を開く。話し合いの主なテーマは、初年度は地域のお宝、2年目は高齢者の生活課題や支援のあり方。3年目となる今年度は、新たなサービスづくりの検討を始める。「お宝を大事にしつつ、住民が足りないと感じている部分を

を補えるサービスや住民活動の仕組みを検討したい」

お宝の見える化も、従来の取り組みに加え、「誰でも参加可能な発表会のようなもの」を考えている。

佐藤さんは元理町出身、在住の44歳。町社協のボランティアコーディネーター、復興支援コーディネーターなどを経て、2017年4月から生活支援コーディネーターを務める。「私も高齢になったら、ただ家にいるだけなんていや。いまからつながりをいっぱいつくっておきたい」

お宝を知れば、自身の高齢期の望ましい生き方も見えてくる。それもまた、地域づくりへのワンステップだ。**利**



公園でたまたま出会った高齢女性と会話が弾む

女川町

【おながわちょう】人口6466人(世帯数3125世帯)、高齢化率38.7%(2019年3月31日時点)。生活支援体制整備事業は2017年4月、町社会福祉協議会による生活支援コーディネーターの配置でスタート。名目上は町全域(第1層)を日常生活圏とするが、実際の運用は第1層だけでなく、複数行政区で構成する第2層、単位行政区(計33区)の第3層という3つの圏区分を採用。コーディネーターと協議体の配置、設置もこの区分に準ずる。協議体は同年8月、まず第2層で立ち上げられ、続いて第1、3層へと展開。

お宝生かす協議体 地域づくりに 手応え

住吉いづみさん

住吉いづみさん(女川温泉ゆほぼ併設のJR女川駅前で)



カメラ向ければはいポーズ

「第1層から(方針や施策を)地域へおろすのではなく、第2、3層の地域から積み上げていく生活支援体制整備を目指しています」

女川町の体制整備をこう説明するのは、生活支援コーディネーターの住吉いづみさん。町社会福祉協議会の地域福祉係に所属し、主に第2、3層を担当する。

2017年4月に町の体制整備が始まると、住吉さんはすぐ地域に入った。介護予防やつながりづくりに役立つ住民活動、日常の暮らしのなかの見守り、支え合いといった「地域のお宝」の掘り起しを進める。1か月も経たないうちに、手づくりのお宝情報紙「いいものみつけ!」を創刊。各種住民団体が取り組むサロンやボランティア活動、地域交流イベント、スポーツ・趣味・娯楽のサークル活動のほか、「男の集い場」や伝統の祭り、盆踊りなども紹介してきた。A3版カラー印刷で、公共施設や地区集会所などの掲示板に貼り出す。おおむね2か月に1回のペースで発行。協議体を開く際は、告知や実施報告も載せた。

活動を始めて最初の10か月で取材した住民活動や地域行事は300件超。住吉さんのお宝探しは住民がよく知るところとなり、「私がカメラを向けると、皆さんちゃんとポーズを取っ

てくれます(笑)」
地域に入るコツは何か。

「とにかくまずあいさつして、会話すること。『こんにちは、何してるの?』とか言って。何度も足を運び、私のことと、私が地域に入る目的を知ってもらいます」

取材は「私のこと」を知ってもらってから。それまではひたすら、「住民の皆さんのところにお邪魔し、活動に交ぜてもらいます」

ある地区の老人会が、子どもたちと芋掘りをし、収穫した芋で「芋煮会」をする。女性陣が料理をつくる合間に、子どもと男性高齢者がグラウンド・ゴルフを楽しむ。「私も一緒に畑仕事をしたり、お料理を手伝ったり、食べたりするんです。私自身が楽しみながら、子どもたちやお母さんたち、じいちゃんばあちゃんと話をするわけです」

離島の出島いずしまに行ったとき、渡船から新聞の束を受け取る女性を見かけた。気になって、「その新聞、配達するんですか。ご苦労さまです」と声を掛けた。それをきっかけに、港から集落まで車に乗せてもらえることになり、その配達員が高齢者の見守りや移動の手伝いをしていくことがわかった(5頁囲み記事参照)。「行けば(地域に)入れるし、お宝も見つかりますよ」

同町の体制整備は、町全体の第1層、隣接する複数行政区で構成する



わがまちのお宝紹介

【出島の新聞配達さん】出島は女川町の離島。出島・寺間の2集落があり、それぞれに毎朝渡船で届けられる新聞を受け取って各戸に配る島在住の配達員がいる。このうち出島集落の配達員は、約20世帯を担当。新聞は一軒一軒玄関を開け、「おはよう」と声掛けて配る。生活支援コーディネーターの住吉いづみさんは、「すごい見守り活動」と評価。住民のほとんどが高齢者で、車を運転する人は少ない。集落から港までは距離があり、通院や買いものなどで島を出るときは「港まで乗せてって頼むと、配達さんは快く引き受けてくれるんですよ」（住吉さん）

「高齢」以外の取り組みも

「地域から積み上げていく体制整備」とは、要するにお宝を生かす地域

第2層、単位行政区の第3層という多層型。町社協のコーディネーター配置もこれに沿う形で、第1層は地域福祉系の職員2人が従来業務との兼任で担当。第2、3層は住吉さんともう1人の同僚職員が専任コーディネーターとして担当する。

主軸は当然、住吉さんら専任のコーディネーターだ。

づくり。まず掘り起こして「見える化」し、協議体でお宝に関する情報と認識の共有を図る。

見える化では、前述した情報紙のほか、発表会も開いている。初開催は2018年8月。「地域自慢大賞」おらこのこいづば見でけらいん（私の地域のこれを見てちょうだい）と銘打って実施した。伝統芸能の保存会、認知症サポーター劇団、健康づくりサークル、行政区の住民自治組織の4団体が

出場。集まった町民170人あまりの前で活動を披露し、喝采を浴びた。同様の発表会を今年度以降も継続することになっている。

情報紙は、今年3月で休刊。代わって隔月刊の「社協だより」にお宝専用コーナーを設ける。従来取り上げなかった地域の世話役など、「お宝的人物」も紹介する予定という。

協議体では、はじめにコーディネーターの活動報告とお宝の事例紹介などが行われる。そのうえで、第3層では、参加者が自分の住む地域のよさ（お宝）を付せん紙に書き出すグループワークをする。「日々のちよっとしたあいさつも、見守りや支え合いになっていることに気づいてもらいます」。第3層協議体は、前年度までの2か年で全行政区で開いた。「今年度は、協議体のために住民を集めるのではなく、区の行事で集まるのに合わせて私がお邪魔し、その場を事実上の協議体にし

たい」

第2層では、同様のワークに加え、複数行政区の参加者がそれぞれのお宝の情報交換を行い、刺激し合う場とした。「今後は、従来の複数行政区の枠組みのほかに、子育てとか若者の社会参加、多世代交流といった高齢以外の話題を話し合う、テーマ別協議体とすることも検討中」

地域づくりは本来「高齢」に限らない。たとえば、子どもから高齢者までが役割を持つて参加でき、世代を超えた交流の場となる祭りや盆踊りなどは、究極のお宝。しかし「高齢」とらわれていては、こうした住民活動に着目し、あと押しするのは難しい。お宝を生かす地域づくりで協議体が多様化するのには、自然な流れと言えるだろう。

同町の協議体は第1〜3層のいずれも構成員を固定していない。「住民が集まる場を協議体にする」「テーマ別の協議体を設ける」といったアイデアもこれが前提。ちなみに第1層協議体では、昨年度開催した4回のうちの1回で、町内の宅配事業者が招かれた。集荷や配達が見守りにつながっている実態を明らかにし、宅配を町全体に関わる「お宝」として位置付けている。



「デスクワークは苦手」と言う住吉さん。お宝情報紙は自ら編集、発行してきた

「体制整備を2年間やってきて、協議体が地域づくりの基盤になるっていう手応えを感じています。高齢に限らず、いまあるもの、お宝を大事にしているなかで、新しい何かを生み出すことにもつながると思います」

住吉さんは女川町出身、在住の47歳。生活支援コーディネーターの前は、町社協の「ここからだから」とくらしの支援員（生活支援相談員）を務め、震災被災者の支援にあたっていた。

住民から親しみを込めて「いづみちゃん」と呼ばれると、地域になじめた感じがして「すごくうれしい」。住民と関わる楽しさ、うれしさが、この仕事の醍醐味だ。

利

生活支援推進連絡会議の活動報告

発足させた「宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議」の昨年度の活動を報告します。



1 連絡会議の開催 2回

普及啓発や情報交換を行うため、行政、職能団体及び事業者団体等で構成される連絡会議を開催しました。

| | 日時 | 開催場所 | 出席人数 | 内容 |
|-----|------------------------|-----------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 6月8日(金) 10:30~12:00 | TKPガーデンシティ PREMIUM | 158人 | <ul style="list-style-type: none"> ○2018年度事業計画説明 ○基調講演「地域包括ケアを展開するための地域づくりの重要性II」 講師 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員長 東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ○情報交換 |
| 第2回 | 2月7日(木) 13:00~15:00 | パレス宮城野 | 34人 | <ul style="list-style-type: none"> ○2018年度事業経過報告 ○2019年度事業計画説明 ○意見交換・情報交換 |



2 全国セミナーの開催 1回

介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の円滑な実施を推進するため、セミナーを開催しました。

| | 日時 | 開催場所 | 出席人数 | 内容 |
|---------------------------------------|--------------------------|------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 年1回 <small>※本紙第20号に報告記事を掲載</small> | 11月16日(金) 10:20~16:00 | 日立システムズホール | 337人 | 第3回 宮城発これからの福祉を考える全国セミナー <ul style="list-style-type: none"> ○第1部 復興をさらにすすめるための地域のつながり支援 【活動発表とディスカッション】 ～みやぎの地域づくりは、被災者支援から～ ○第2部 つながりを広げる協議の場 その1【活動発表とディスカッション】 ～地域とのかかわり、お宝探し～ その2【活動発表とディスカッション】 ～協議体をワイワイガヤガヤとすすめるコツ～ その3【対談】 ～10年後、20年後を見据えた地域づくり～ ○第3部 宮城発これからの福祉を考える 【シンポジウム】 ～みんなで地域を輝かせるために～ |

3 運営委員会 9回

連絡会議の進行管理等について審議し決定するため、毎月1回開催しました。

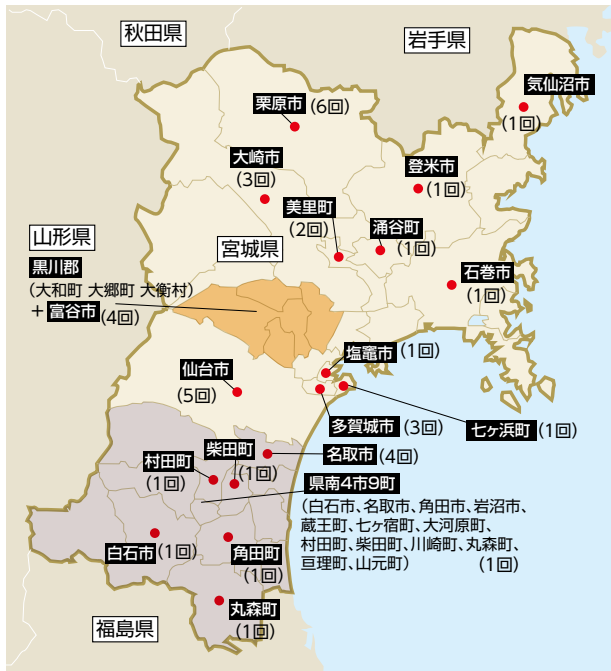
| 日時 | 開催場所 | 出席人数 | 内容 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月12日(木) 9月13日(木) 5月10日(木) 10月11日(木) 6月 8日(金) 12月13日(木) 7月12日(木) 1月17日(木) 8月 9日(水) | 県庁保健福祉部会議室 自治会館 TKPガーデンシティPREMIUM パレス宮城野 | 運営委員 13人ほか | <ul style="list-style-type: none"> ○市町村訪問状況について ○アドバイザー(運営委員)派遣状況について ○生活支援コーディネーター養成研修及び応用研修について ○情報紙について ○情報交換会について ○セミナーについて 等 |

2018年度 宮城県地域支え合い

宮城県内の地域支え合いと生活支援の取り組みを推進するため、2015年10月に県が

4 市町村への情報提供及び助言

(1) 県内市町村等からの依頼に基づき、市町村等が主催する研修会や地域ケア会議での講演や助言をおこなうため、アドバイザーを派遣しました。 20市町40回



(2) 市町村の現状・実態把握のため、アドバイザー同伴で訪問・ヒアリングを実施しました。 1回

| 訪問月 | 訪問先 | 内容 |
|--------|-----|----|
| 1月 (1) | 柴田町 | 助言 |

(3) 市町村の現状・実態把握のため、訪問・ヒアリングを実施しました。 35市町村77回

| 訪問月 | 訪問先 | 内容 |
|-----|-----------------|-------|
| 通年 | 35市町村 (連絡会議事務局) | ヒアリング |

| 派遣月(回数) | 派遣先 | 内容 |
|---------|---------|-------|
| 4月 (2) | 多賀城市 | 助言 |
| | 大崎市 | 講演 |
| 5月 (2) | 栗原市 | 講演 |
| | 多賀城市 | 演習 |
| 6月 (5) | 仙台市泉区 | 講演 |
| | 登米市 | 講演 |
| | 仙台市泉区 | 講演 |
| | 仙台市泉区 | 講演 |
| | 仙台市宮城野区 | 講演 |
| 7月 (4) | 涌谷町 | 講演 |
| | 白石市 | 講演 |
| | 気仙沼市 | 講演 |
| | 黒川郡・富谷市 | 講演 |
| 8月 (3) | 黒川郡・富谷市 | 講演 演習 |
| | 美里町 | 講演 |
| 9月 (2) | 大崎市 | 講演 演習 |
| | 黒川郡・富谷市 | 講演 演習 |
| 10月 (4) | 七ヶ浜町 | 講演 |
| | 大崎市 | 講演 |
| | 黒川郡・富谷市 | 講演 演習 |
| | 多賀城市 | 講演 |
| 11月 (3) | 名取市 | 講演 演習 |
| | 名取市 | 講演 演習 |
| | 栗原市 | 講演 演習 |
| 12月 (2) | 大崎市 | 講演 |
| | 栗原市 | 講演 |
| 1月 (4) | 石巻市 | 助言 |
| | 柴田町 | 講演 |
| | 栗原市 | 講演 |
| | 角田市 | 講評 |
| 2月 (5) | 名取市 | 講演 講評 |
| | 村田町 | 講演 |
| | 県南4市9町 | 助言 |
| | 丸森町 | 講演 |
| | 仙台市泉区 | 講演 演習 |
| 3月 (4) | 栗原市 | 講演 |
| | 塩竈市 | 講演 講評 |
| | 栗原市 | 助言 |
| | 美里町 | 助言 講演 |

5 情報交換会の開催 全2回

県内高齢者福祉圏域ごとを基本に、生活支援コーディネーターの活動や地域包括ケアを展開するための地域づくりについて、運営委員・行政職員・生活支援コーディネーター任命(予定含む)者等とともに意見交換を行いました。

| | 実施日 | 圏域 | 開催場所(アドバイザー派遣) | 出席人数 | 内容 |
|-----|----------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 7月 5日(木) | 全圏域 | JAビル宮城 11階第会議室 (運営委員10人) | 172人 | <ul style="list-style-type: none"> ○行政説明 ○講義 「地域づくりを進める生活支援体制整備事業」～協議体を活用した住民主体の地域づくり～ 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員長 東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏 ○情報交換(グループワーク) グループごとに、自治体と生活支援コーディネーター・協議体の現在の活動状況や、これからの取組みについて意見交換を行いました。 ○発表・講評 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員 |
| 第2回 | 2月 1日(金) | 仙南 仙台(名取市, 岩沼市, 亶理町, 山元町) | 宮城県大河原合同庁舎 (運営委員5人) | 53人 | <ul style="list-style-type: none"> ○講演「地域づくりの展開過程について～繰り返すことと話し合うことの大切さ～」 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員 ○情報交換(グループワーク) ○発表・講評 宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議 運営委員会委員 |
| | 2月14日(木) | 大崎・栗原 石巻・登米・気仙沼 | 宮城県登米合同庁舎 (運営委員3人) | 81人 | |
| | 2月15日(金) | 仙台(仙台市, 塩竈市, 多賀城市, 富谷市, 松島町, 七ヶ浜町, 利府町, 大和町, 大郷町, 大衡村) | SS.仙台ビル スタンダード会議室 仙台勾当台店 (運営委員5人) | 49人 | |





3段階の基本研修と実践講座、対象者限定研修を実施。基本研修913人、実践講座444人、対象者限定研修79人の計1436人が受講しました。この4年間の研修における基本研修の修了者は延べ728人です。

| 基本研修 | 会場 | 日程 | 受講者数 | |
|--------------------------------------|---------------------|------------------|------|------|
| 研修1 初級研修 | 気仙沼会場:宮城県気仙沼保健福祉事務所 | 6月28日(木) | 61人 | 474人 |
| | 石巻会場:石巻商工会議所 | 7月6日(金) | 52人 | |
| | 栗原会場:宮城県栗原合同庁舎 | 7月18日(水) | 32人 | |
| | 仙台会場:仙台市福祉プラザ | 7月19日(木) | 110人 | |
| | 蔵王会場:蔵王町ふるさと文化会館 | 10月4日(木) | 57人 | |
| | 仙台会場:仙台市福祉プラザ | 10月5日(金) | 83人 | |
| | 南三陸会場:総合ケアセンター南三陸 | 12月3日(月) | 79人 | |
| 研修1-2 「地域福祉コーディネート基礎・実践研修」受講のための事前研修 | 仙台会場:仙都会館 | 7月30日(月)-31日(火) | 46人 | 144人 |
| | 仙台会場:仙都会館 | 10月22日(月)-23日(火) | 40人 | |
| | 気仙沼会場:宮城県気仙沼合同庁舎 | 2月25日(月)-26日(火) | 58人 | |
| 研修2 地域福祉コーディネート基礎・実践研修 | 仙台会場:宮城県自治会館 | 9月20日(木)-21日(金) | 78人 | 134人 |
| | 仙台会場:仙都会館 | 1月17日(木)-18日(金) | 56人 | |
| 研修2-2 地域福祉コーディネート中堅研修 | 仙台会場:宮城県自治会館 | 1月21日(月)-22日(火) | 32人 | 32人 |
| 研修3 生活支援コーディネート基礎・実践研修 | 仙台会場:エスポールみやぎ | 11月1日(木)-2日(金) | 66人 | 129人 |
| | 仙台会場:宮城県自治会館 | 3月11日(月)-12日(火) | 63人 | |

| 実践講座 | 会場 | 日程 | 受講者数 | |
|-------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------|------|
| 講座1-1 地域支え合いの発見の仕方 | 仙台会場:エスポールみやぎ | 8月20日(月) | 30人 | 105人 |
| | 気仙沼会場:宮城県気仙沼合同庁舎 | 12月25日(火) | 75人 | |
| 講座1-2 地域支え合いの伝え方 | 仙台会場:宮城県自治会館 | 10月2日(火) | 40人 | 107人 |
| | 気仙沼会場:宮城県気仙沼合同庁舎 | 1月15日(火) | 67人 | |
| 講座1-3 地域支え合いの共有の仕方 | 仙台会場:せんだいメディアテーク (お宝発表会参加者:76人) | 12月11日(火) | 28人 | 60人 |
| | 大崎会場:バレットおおさき (お宝発表会参加者:130人) | 1月25日(金) | 11人 | |
| | 白石会場:ホワイトキューブ (お宝発表会参加者:304人) | 1月29日(火) | 21人 | |
| 講座2 生活支援コーディネーターによる実践交流&事例検討会 | 仙台会場:エスポールみやぎ | 10月18日(木) | 18人 | 18人 |
| 講座3 協議体運営の方法 | 仙台会場:エスポールみやぎ | 11月29日(木) | 23人 | 23人 |
| 講座4 有償サービスの立ち上げと運営 | 仙台会場:宮城県自治会館 | 12月20日(木) | 20人 | 20人 |
| 講座5-1 地域支え合い活動実践研修1 | 多賀城市研修:多賀城市文化センター | 1月31日(木) | 31人 | 95人 |
| | 倉敷市研修 :エスポールみやぎ | 1月16日(水) | 36人 | |
| | 佐川町研修 :エスポールみやぎ | 2月13日(水) | 28人 | |
| 講座5-2 地域支え合い活動実践研修2 | 塩竈市 (2月21日 お宝発表会参加者:271人 /うち市外参加者:38人) | 第1回 9月7日(金) 第2回 10月29日(月) 第3回 11月22日(木) 第4回 2月21日(木) | 16人 | 16人 |

| | | | | |
|-------------------------------|----------------------------|----------|-----|-----|
| 対象者限定1 自治体職員研修 | 仙台会場:TKPガーデンシティPREIMUM仙台西口 | 6月8日(金) | 41人 | 41人 |
| 対象者限定2 市町村担当者・受託団体上長研修 | 仙台会場:仙都会館 | 8月2日(木) | 22人 | 22人 |
| 対象者限定3 地域包括支援センター職員と介護支援専門員研修 | 仙台会場:宮城県自治会館 | 2月19日(火) | 16人 | 16人 |

情報紙「MIYAGIまちづくりと地域支え合い」の発行

宮城県内外の生活支援コーディネーター及び協議体の取り組みを発信する情報紙を隔月で発行しました。



その他 各種団体と連携・協力し、市町村の介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な実施に務めました。